

## 2026年9月期第2四半期決算説明会 質疑応答集

この質疑応答集は2026年6月1日に開催した2026年9月期第2四半期決算発表会での質疑回答をまとめたものです。なお、ご理解いただきやすいよう、一部表現の変更や内容の加筆・修正を行っております。

### Q1: 中東情勢の影響によるエネルギーコスト上昇への対応方針と、次期中期経営計画の策定状況について教えてください。

A1: 中東情勢の影響により、資材価格や電力コストの上昇が想定されますが、現時点では業績に大きな影響を及ぼす状況には至っておりません。

今後、電力料金等のコスト上昇が発生した場合には、お客様への丁寧な説明を行いながら、適切な価格改定を進めていく方針です。

次期中期経営計画については現在策定中であり、従来予定しているスケジュールでの公表となる見込みです。冷蔵倉庫事業では、長期計画のヨコレイ事業ビジョン2030で掲げた売上高目標の達成が視野に入っていることから、その状況を踏まえた計画を検討しております。また、食品販売事業についても、ヨコレイ事業ビジョン2030で掲げる営業利益率目標の達成に向け、より具体的で分かりやすい形でお示しできるよう準備を進めております。

### Q2: 冷蔵倉庫事業の事業環境について、荷動き、在庫水準および価格改定の観点から解説してください。

A2: 冷蔵倉庫事業を取り巻く環境は、冷凍食品や輸入冷凍品、EC向け食品の需要拡大を背景に、今後も成長が期待される市場であると認識しております。

一方で、業界全体では在庫水準の高止まりが続いており、主要都市部では倉庫利用率が高い水準で推移しております。足元では物価上昇や消費低迷の影響により、荷動きに一部鈍化傾向が見られます。

このような環境下において、電力料金や燃料価格の上昇に対応するため、お客様との価格改定交渉を継続的に実施しております。その結果、前年同期比で保管料単価は5.3%、荷役料単価は5.8%上昇いたしました。今後もコスト上昇分の適正な価格転嫁に取り組んでまいります。

### Q3: 食品販売事業の収益性が大きく改善し、安定化している要因について教えてください。

A3: 主な要因として、棚卸資産改革および事業所別 ROIC 管理の導入が挙げられます。これらの施策は当初想定よりも早い段階で成果が現れております。

具体的には、在庫は前年同期比で約25%削減し、在庫回転期間についても約25%短縮いたしました。また、販売費の削減にも取り組んだ結果、安定した収益性の確保につながっております。

**Q4: 業績予想修正の背景および中東情勢など外部環境の影響をどのように計画へ織り込んでいるか教えてください。**

A4: 今回の業績予想の上方修正は、冷蔵倉庫事業および食品販売事業の上期業績が計画を上回って推移したことを反映したものです。

中東情勢に起因する電力料金や商品価格の上昇については、適切な価格改定による対応が可能と考えており、今回の業績予想修正には織り込んでおりません。

**Q5: ベントール・グリーンオーク社との提携の進捗状況について教えてください。**

A5: 現在、基本合意事項に基づき、継続して協議を進めております。

現時点では、既に開示している内容以上の具体的な説明は差し控えさせていただきますが、各施策の実現に向けた検討を進めております。今後、開示すべき事項が生じた場合には速やかに公表いたします。

**Q6: 冷蔵倉庫事業の好調要因として、料金改定の今後の引き上げ余地について教えてください。**

A6: 保管料および荷役料を中心に料金改定を継続して実施しており、業績向上に寄与しております。

また、当社の料金体系には複数の項目があり、それぞれについて順次見直しを進めております。今後も価格適正化に加え、業務効率化などの施策を通じて収益力向上に取り組んでまいります。

**Q7: 大阪・夢洲地区における物流施設について、今後の多用途活用の可能性はありますか。**

A7: 夢洲地区では、大阪・関西万博終了後の再開発計画が進められており、今後もさまざまな事業展開が想定されます。

当社は同地区において冷蔵倉庫事業を展開しておりますが、保管・荷役サービスに加え、スペース活用や関連サービスなど、多様な事業機会についても検討の余地があると考えております。今後の地域開発動向や市場環境を踏まえながら、事業価値の向上に取り組んでまいります。

以上